

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「和ばさみと ちえーろーえす」

たまげましたて、このわたし。最近「切る」をキーワードにしたたまげることがしかもあります。庭先に入ってきた元あねさが、いきなり無断で花をポキリと切り取ったのもたまげましたし、通りがかりのこれまた別の元あねさが、敷地内のハーブを堂々と切り取って去ったのもたまげました。外に出たら、突然「あんたの家の木がじゃまらて。虫が来るて」と100年以上前からある樹木にねんだりこきのように文句言われたのもたまげました。心の広い私はあんげこと、こんげこと、温かく・クールに見守っておりましたが、「こりゃ、ちとクールではいらんねて」とさらにたまげる「切る」関連がありました。

それは、なんとびっくり、車を運転しながら、はさみで自分の茶髪ウェーブの毛先を器用にパッチン、パッチンしている元あねさです！その髪の毛の痛み具合から察すると枝毛切りです。あんまり珍しい・危ない・怖い光景なので、はらはらしながらじっくり観察させていただきました。しかも、そのはさみ、しっかりと握る和ばさみですから、なお恐ろしい。童話「舌切り雀」の舌をパッチンした大昔のあねさまと、手にした握りばさみを思い浮かべてくだされば、その怖さが分かるというものです。

この握りばさみの「和ばさみ」に対して「洋ばさみ」がありますが、和ばさみの製造元のほとんどが、新潟県の三条市と兵庫県の小野市に集中しているといいます。さすがは金物の町三条です。私が目撃した髪切り人のはさみも、メイド・イン・ニイガタであったかもしれません。

和ばさみには「関東型」と、刃先が関東型より少し長めの「関西型」があり、普段関東型に慣れている者にとって、関西型は刃先が尖っていて手にする時にためらう感もあります。先の枝毛切り人も「関西型」なら車中で使うなど大胆な行動には出なかつ

たことでしょう。

さて「和ばさみ」というくらいですから、日本古来のものかと思いきや、さにあらず。古代ギリシャ時代の遺跡からこの形が出土しているといい、大昔は各国で使用されていたようです。しかしながら、現在この形を使っているのは日本だけ、ということで、「和ばさみ」の名でよばれるようになったといえます。

「和ばさみ」「握りばさみ」「御絹^{おきぬ}ばさみ」「糸きりばさみ」と呼び名もいろいろですが、かつて祖母は「糸きり」と呼んでいたように記憶しています。また、県内には「ちょきちょきばさみ」「絹ばさみ」との名称もあるようです。

ところで、はさみと言えばじゃんけんのチョキ、このじゃんけんのはさみも、「和ばさみ型」と「洋ばさみ型」があります。一般的にはVサイン型ですが、親指と人指し指を突き出した「和ばさみ型」を時折目にすることがあります。

秘かに筆者が観察したところ、主に男性が、旧新潟市内の方言「ちえーろーえす！」のじゃんけんの掛け声とともに使っているように思います。かつて県内では「和ばさみ型」は「男じゃんけん」、Vサイン型は「女じゃんけん」といわれていたことから、勝負にかける意気込みが伝わってくるようです。

事実私は、某会の大じゃんけん大会で、某社会長にこの和ばさみを出されてから、調子が狂い優勝を逃した辛い経験がありますから、「勝負じゃんけん」にはお勧めかもしれません。今回「切る」関係で多くの発見がありましたが、皆様、運転中のはさみ使いや、怪しい言動は危険ですので絶対にマネしませんように！

